

平成30年度 事業計画

(1) ワーキンググループの開催（平成30年4月～平成31年3月）

昨年度に引き続き、各部会ワーキンググループにおいて、それぞれのテーマについて検討を実施する。

（各ワーキンググループを3ヶ月に1回程度開催する。）

また、ワーキング横断型の取組みに関する検討を実施する。

【素材関連ワーキンググループ】

（反射、遮熱、断熱等に資する素材の研究、具体的活用の提案）

米国の Cool wall や国際的な再帰性反射材料の取組みについて情報交換、収集を行い新たな素材に関する検討の可能性を追求する。適応策として利用されるルーバー、オーニング、日射遮蔽装置などの評価の可能性を検討する。

【熱有効活用・人工排熱低減ワーキンググループ】

（潜熱化、排熱利用、省エネ・新エネ・代エネ技術（ESCO 含む）による対策手法の調査、活用）

[人工排熱の大気熱負荷削減効果の推奨制度の確立]

- ① 空冷空調機用排熱低減対策装置による人工排熱削減効果および熱汚染対策効果の推奨方法
 - ・ 空冷空調機用排熱低減対策装置の調査
 - ・ 蒸発量データ等による大気熱負荷削減効果の検証方法の確立
 - ・ 排気温度調査等による熱汚染対策効果の検証方法の確立
 - ・ 推奨範囲（推奨対象、期間など）の設定
 - ・ ピーク電力削減効果・温暖化対策効果の関連性調査
- ② 人工排熱を大気以外の媒体に処理する技術を対象にした大気熱負荷削減効果の推奨方法
 - ・ 人工排熱を大気以外の媒体に処理する技術の調査
 - ・ 河川水・海水利用、地中熱利用に関する経験を有する新たな WG メンバーの選定
 - ・ 運用データを用いた大気熱負荷削減量の効果の検証方法の確立
 - ・ ピーク電力削減効果・温暖化対策効果など関連した効果の評価
 - ・ 人工排熱を大気以外の媒介に処理する技術の設計段階における効果推奨方法の検討
- ③ 大気の直接冷却技術の調査
 - ・ 空気熱源ヒートポンプ、冷却塔、水噴霧など大気を直接冷却する技術の調査
 - ・ ピーク電力削減効果・温暖化対策効果など関連した効果の評価
- ④ 推奨制度の確立
 - ・ 設計段階と運用段階での制度確立
- ⑤ ZEB・ZEHにおけるヒートアイランド対策の検討

[熱有効活用・人工排熱低減に関する情報収集・調査、検討、及び広報]

- ・ 学術研究者や会員を講師にした関連技術等の話題提供や情報交換を行うとともに、情報収集、文献調査を実施する。
- ・ 今後、空冷空調機用排熱低減対策装置以外の新たなヒートアイランド対策技術の検討を進めるため、ゼネコン業界、エネルギー業界、自動車業界、住宅・ハウスメーカーの関係者と情報交換を行うとともに、情報収集を実施する。

【クールスポット創造技術手法ワーキンググループ】

(緑化、水活用(噴霧、散水)等技術手法の研究、具体的活用の提案)

- ① 緑化技術に関する評価シートの項目、評価手法について、引き続き検討を行う。
- ② 平成26年度に作成した簡易測定装置を活用し、測定依頼があった場合、実際の屋上等の施工現場で実測を行い、屋外現場での装置の測定性能評価を行う。
- ③ 水を利用した道路を冷ます技術など、水を活用したクールスポット創造技術に関する評価シートの項目や評価手法等の検討を行う。
- ④ 緑化が困難な場所等での保水性資材を用いた温度低減効果など新たな提案の検討を行う。
- ⑤ 随時、緑化技術をはじめとした様々なクールスポット創造技術に関する情報交換、及び他のWGとの情報交換を行う。

(参考) 簡易測定装置を用いた測定状況



【熱負荷評価手法ワーキンググループ】

(熱負荷削減評価手法の検討)

引き続き、認証制度の対象となる技術の追加が検討される際には、関係のWGと連携して、当該技術に関するシミュレーション手法についての検討を行う。

【都市デザインワーキンググループ】

(地域における「あるべき都市デザイン」の検討・提言)

- ① クールスポット・クールロード 100 選や過去のアイデアコンペの成果を用いたワークショップを実施し、WG 横断的勉強会での新たな対策技術、特に適応策への貢献や新たなライフスタイルのあり方等を検討する。
- ② 啓発活動の一環としてクールスポット・クールロードの現地研修会を実施し、その際、暑熱環境等の計測技術を講習するとともに HITEC 会員企業のヒートアイランド対策製品の効果確認と PR を実施する。
- ③ 大阪府クールスポット 100 選（平成 24 年夏実施）及び大阪府クールロード 100 選（平成 27 年度夏実施）のホームページを継続しつつ、新たな情報発信の手法について検討する。

【ヒートアイランド適応策導入に向けた WG 横断勉強会】

- ① 適応策の評価に関係する指標や方法について検討する。
- ② 地域適応コンソーシアムとの連携を検討する。
- ③ 適応策メニューの整理を行う。
- ④ 適応策の導入方針を検討する。
- ⑤ 適応都市の具体事例を検討する。
- ⑥ 適応都市の評価方法を検討する。
- ⑦ 行政の役割を検討する。

(2) 認証制度運営委員会、認証制度、審査委員会の開催

認証制度申請技術に関する審査会を年 2 回程度開催する。

(3) 企画運営委員会の開催

検討部会の進捗状況等について検討するため、年 2 回程度開催する。

(4) 理事会の開催（平成30年7月）

総会の開催にあたって、以下の検討を行い、総会に上程する。

- ・ 会議の進め方
- ・ 平成29年度事業報告、同収支決算
- ・ 平成30年度事業計画（案）、同収支予算（案）

(5) 通常総会の開催（平成30年7月）

以下の項目などに関する議決を行う。

- ・ 会則改定
- ・ 理事及び監事の選任、再任
- ・ 平成29年度事業報告、同収支決算
- ・ 平成30年度事業計画（案）、同収支予算（案）

(6) セミナーの開催

ヒートアイランド対策技術に関する啓発セミナー等を1～2回開催する。

(7) 部会活動等の周知

各部会で検討された内容等をまとめたニュースレターを1～2回発行する。

(8) ホームページの充実

コンソーシアムの活動成果等について、随時更新を行うとともに、ヒートアイランド対策技術認証制度において認証された技術等について公表する。

(9) 大阪ヒートアイランド対策技術コンソーシアムPR用リーフレットの配布

普及啓発、検討部会への参画を促す。

(10) コンソーシアム等の認知度・ブランド力の向上

ヒートアイランド対策技術を普及させるため、産業振興機関との連携等、コンソーシアム及び対策技術認証制度の認知度・ブランド力を高める方法について検討する。

(11) 日本ヒートアイランド学会全国大会への出展

コンソーシアムの活動成果等について、日本ヒートアイランド学会全国大会において講演、展示等を行う。

（平成30年8月25日、26日 大阪府立大学中百舌鳥キャンパス）